

令和8年度第1回伊根町地域公共交通会議概要

日 時 令和8年5月22日(金) 15:00~16:15
場 所 伊根町ほっと館 ふれあいホール
出席者 名簿のとおり
欠席 日本交通株式会社福知山営業所 川本委員
伊根町老人クラブ 濱野委員
伊根地区区長協議会 永濱委員

1. 開会

2. 挨拶

3. 報告事項

① 伊根町における公共交通の現状について

- ・福祉有償運送について（資料1）
- ・令和7年度丹海路線バス(200円バス)の実績について（資料2）
- ・予約型乗合交通いねタクについて（資料3）

事務局から報告（資料のとおり）

② いねタク利用促進事業について（資料7）

- ・京都府公共ライドシェア利用支援事業補助金を活用した、いねタクの利用促進事業を新規で実施。令和8年6月中に開始する予定。
- ・事業内容は資料のとおり。

③ 地域間幹線系統確保維持事業の概要について（資料8）

（京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会）

- ・京都府北部地域広域（5市2町）の協議会から国に申請する計画内容について報告。
- ・路線要件、計画期間、補助金算定の内容、申請額等は資料に記載のとおり。
- ・計画申請までに軽微な修正が生じる可能性がある。
- ・地域公共交通計画の改定を前提とした申請のため、計画改定後には変更を行う必要がある。（令和8年度中）

意見・質疑

【本庄地区区長協議会 坂田委員】

いねタクは利用前に利用登録をしなければならない。町民であれば登録不要で使えるようにはできないのか。なぜ利用登録が必要か。電話予約時にオペレーターに氏名等を伝えることで、利用できるのではないか。

【伊根町企画観光課 千賀委員】

いねタクはタクシーとは違い、自宅まで迎えに行くため事前の利用登録が必要になる。手間かとは思いますが、利用登録はいねばん画面を2回押すだけなので、ご協力をお願いしたい。

【事務局】

補足として、いねタクの予約システムはインターネット上で管理している。伊根町から運行を委託している「一般社団法人 伊根町ふるさと振興公社」及び「システム会社」へ個人情報を提供することになる。そのため、利用申込み時に個人情報の提供について同意をいただく側面もある。ご承知いただきたい。

【伊根町身体障害者福祉会 亀井委員】

①地域間幹線系統確保維持事業の概要について（資料8）京都府北部広域の範囲はどこまでか。福知山以北か。

②いねタクの運賃収入（現金）のうち、観光利用者が支払いをされたのは何割程度か。

また、いねタクの運行に際し、燃料代や車両代等の経費が発生していると思われるが、運賃300円のうち経費はいくらか。300円の収入を得るためにはどれだけの経費がかかるのか。

【伊根町企画観光課 千賀委員】

①京都府北部の5市2町です。（福知山市、綾部市、舞鶴市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町）

②運賃収入（現金）の観光利用者の支払い割合は集計をしていないため回答ができない。

また、いねタクの全体経費は約2,000万円、約980万円の赤字。利益はなく、運賃300円はすべて経費。

4. 議事

議第1号

令和7年度伊根町地域公共交通会議収支決算について)

- ・事務局から報告（資料のとおり）
- ・監査委員による監査報告（資料のとおり）

意見・質疑

【伊根町身体障害者福祉会 亀井委員】

地域内フィーダー系統確保維持費補助金は何のために使われた補助金か。赤字補填か。

【伊根町企画観光課 千賀委員】

運行経費の赤字補填に対して上限額いっぱいの補助をいただいたもの。

挙手全員により承認

議第2号

令和7年度伊根町地域公共交通会議収支決算について)

- ・事務局から報告（資料のとおり）

意見・質疑

【伊根町身体障害者福祉会 亀井委員】

令和7年度予算に対し、令和8年度予算は減額になっているようだが、予算額を上回る補助金はないという理解でよいか。

【伊根町企画観光課 千賀委員】

国の補助にかかる基準額は毎年、年度内に決定されている。補助額の増減があるかどうか現時点では不明だが、補助限度額が増加した場合は補正をさせていただく。令和7年度の決算額で予算を立てさせていただいた。

挙手全員により承認

議第3号

令和9年度地域内フィーダー系統確保維持事業計画について

- ・事務局から説明（資料のとおり）
- ・新規車両の取得は、冬季積雪時にも安全な輸送を確保するため、四輪駆動の電気自動車を計画している。

- ・フィーダー計画の期間（令和8年10月から令和9年9月）に対し伊根町地域公共交通計画の計画期間（令和9年3月末）が6月不足している。添付の理由書により、公共交通計画の改定を確約し、申請を行う。
- ・フィーダー計画は、地域公共交通計画の改定にあわせ変更申請を行う必要がある。

意見・質疑

【伊根町身体障害者福祉会 亀井委員】

資料6、4ページに営業外収益「太陽光売電収入」とあるが、いねタクと太陽光はどう関係しているのか。

【伊根町企画観光課 千賀委員】

いねタクは電気自動車を使用している。その電気自動車に充電する施設として太陽光発電施設を設置しており、太陽光で発電した電気を蓄電池に貯めて車両に充電をする。蓄電池が満タンになった後に発電をされた電気を売却している。

挙手全員により承認。

5.その他

【丹海バス労働組合 井崎委員】

運転士として伊根線を乗務しているなかで触れておきたい部分がある。

いねタクとバスの接続は、ある程度定着していると思っている。夕方から夜にかけて伊根に向かって走る際、伊根診療所の前で待っているいねタクをよく見かけ、機能性は相当高いものと感じている。

お配りしたチラシに記載のとおり、4月1日から丹海バスのキャッシュレス決済がスタートした。クレジット決済やQR決済に対応しており、海外の方はクレジットカードを使用される方が多い。最近では地域の方にもご利用いただいている。乗車時と降車時にタッチをするだけで精算される仕組みになっており、誤ってタッチをせずに乗車をされた場合でも運転士が聞き取りながら対応をしている。スムーズかつスマートに降車が可能なので、ぜひご利用いただきたい。

伊根町内には観光客が多いが、当社においても伊根湾めぐり周辺には警備員を配置したり、伊根町による伊根地区内の一方通行誘導等、丁寧に整備いただいているおかげで、路線バスがスムーズに運行できている。伊根バス停付近は大型バスの乗降場所が2台分しかないため、休日の昼間は混雑しているようだ。また、道の駅駐車場が満車になると、付近の車の流れが悪くなり、遅れが生じることがあるので報告する。

【龍谷大学 井上委員】

今後、地域公共交通会議で話題にさせていただけると良いと思う点はいくつかある。

いねタクは非常に順調だが、ドライバーさん達が今後継続して雇用できるのか、見通しを考えていけると良いと思う。

また、いねタクと丹海バスの乗継がどのくらいあるのか、何時頃に利用されているかがわかると、丹海バスの利用促進に繋がっていることが証明される。地域公共交通計画を作成する際にも大変良い資料になる。

また、定期的に観光混雑のデータを共有いただきたい。バスがどれくらい混んでいるのか、自家用車等で訪れる方によって町内の道路状況にどういった影響が出ているのか、伊根町でも観光の混雑をどうコントロールしていけばよいか、協議されるとよい。伊根に限らず今後は日本中どこでも同様の課題が出てくるので、先進的な取り組みとして実施されると全国の参考事例になる。チャレンジされると良いと思う。

最後に、冒頭に町長がおっしゃっていたように、200円バスの運賃は本当にこれでよいのか、伊根町独自でも実施されたらよいと思う。本来の目的は沿線住民の利用促進のために200円にしていたものなので、今後も沿線住民は200円で問題ないと思う。今は沿線外から来ている人たちが支えている。本来は200円バスの目的となった人たちではないので、そういった方々からは本来の運賃をいただくのが筋と考える。実際、インバウンドをはじめとする観光の方々が支えていて、利用者は倍になっているが、運賃収入は昔と変わらない。今は物価も上がり、人権費も上がっていくなかで経営的に大変厳しくなると思うので、乗務員の方々の雇用改善に繋げるためにも、しっかりと適切な運賃を考えていただきたい。ただし、二重運賃にするのではなく、本来の運賃に戻したうえで。沿線住民は200円に割引する形が望ましい。私自身もアクセスする際にバスがないと本当に困るので、ぜひ雇用改善に繋げるためにも、適切な運賃を設定いただけると嬉しい。

【丹後海陸交通 小室委員】

日々は当社事業に対して、ご協力、ご支援いただき誠にありがとうございます。

先ほど井上委員さんからありました運賃 200 円は、見直しの時期にきていると当社でも感じている。こういった形にするのかは、井上委員さんや、他市町、運輸支局さんと協議、ご指導をいただきながら進めていきたい。

4月1日からキャッシュレス決済を導入している。クレジットカードのタッチ決済と、スマホからのQRコードが利用可能になった。利用状況は4月で約3,000件ご利用いただいた。丹後全域の路線バスで実施しているが、伊根線の観光者の利用がほとんどであり、全体の90%ぐらい。5月は集計できていないが、ゴールデンウィークもあったことから、さらに伊根線の割合が上がってきている状況。導入してから周知もあまり出来ていないところですので、本日お配りしたチラシをご活用いただき周知をお願いしたい。

観光客の方がバスに多く乗車し、地元住民が病院に行きたいのに行けないと昨年頃からポツポツと声が上がっている。対策として昨年の途中頃から続行便という2台目を運行させており、今年もその取り組みをほぼ毎日継続している。病院に行きたいのに乗れないといった声は当社ではあまり聞かなくなった。実際に運行してみたところ必要なかった場合もあるので、効率的に運行できるよう実験していきたい。

昨年は観光特急バスとして、運賃1,000円をいただき天橋立から直接伊根に向かう実証実験を行った。それなりの成果があり、今年も国の補助をいただきながら運行できるように計画をしている。今後もそういった取り組みを行っていきたい。

ゴールデンウィークは主に橋立で渋滞し、伊根まで行きたい人が1時間程度の遅延が発生することがあったので、今年はさらに増便した。府中や文殊のあたりで混雑しているので、府中の籠神社前の駐車場にバスを待機させ、そこから定時のバスを出したため、バス停でお待ちのお困りの方はあまりいないようだった。かなりの便数を走らせた。

先ほど井崎委員からもあったように、伊根町内でも混雑しているとのことだが、今年はシルバーウィークもあるので、伊根町が実施する渋滞対策と当社の運行管理とで情報共有を行い協力してやっていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

【京都運輸支局 大西委員】

4月1日から運輸支局に着任した。公共交通に携わるのは十何年振りかぐらだが、当時は今よりも緑ナンバーの運送がもっと走っていた。その頃から住民の皆様が乗っていたかかないと系統がなくなるという話を繰り返ししていたが、実際に10年以上経ち、緑ナンバーの運送事業者さんだけではなんともならないような状況にまで陥っている。

今回、いねタクの話の伺い乗合タクシーを導入されているなかで、資料の中にも記載があるが、どれぐらい収入があるかよりも、どれぐらい乗っているかを見ていただきたい。基本的には一人しか乗っていないということは、普通のタクシーと同じように運賃を取らないと全くやっていけない。これが2人、3人となっていくと、普通のタクシーの運賃を乗車人数で割ったものが妥当な金額。こういった自家用有償運送の乗合タクシーでは、だいたいどこの市町でも乗合率2人を超えているところはあまりない。令和6年には2人を超えて、令和7年度は1.92人と資料に記載があるが、それでも2人に近い数値ということはそこそこ乗っていただいているということ。引き続き住民の方のご協力がないと、国からの補助も出ているが、それ以上にやっていけなくなるものになりますので、引き続きご協力いただきたい。

また、伊根町のほうでも利用促進の取り組み等をされているかと思うので、引き続きよろしく願いいたします。

フィーダー補助金に関して、まだ先の話にはなるが、

令和8年10月から令和9年9月（令和9年度）の間に乗降調査を行っていただき、その結果に基づいて、次回の令和9年10月から令和10年9月（令和10年度）の間の目標を定める。その後、令和10年10月以降に結果について分析を行い、また目標を定めるといったPDCAサイクルが求められるようになる。申請自体は現在既に目標を定めておられ、調査等もされていると思うが、それを実際に形のあるものとして分析して次の目標に活かしていくような繋がりは今後求められるようになる。今回の申請で何か変わるわけではないが、来年以降変わっていくのでご協力いただきたい。

以上